

【学級づくりプログラム(分布5)】

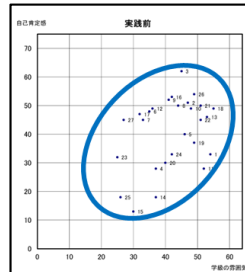
★日常観察による理解★

【教師による日常観察】

- 学級のことに対する価値観の違いが大きい。
- 優しい声掛けをより増やしたい。

★客観的な理解(C&S質問紙)★

分布5(プロットが左下に長く伸びた集団)



【援助や支援方法】

挨拶や話の聴き方、受容する態度等、基本的な関わりを通して信頼関係を築くことが必要であり、よさを認め合う活動が有効である。

※補助資料参照

【SST】「相手の気持ちを理解する」

相手の気持ちを理解することを知り、他者を大切にできる心を育てることができる。

プログラムⅠ(実態に基づいたSST)

- 学級活動
(友達のことを理解しよう)



- 事前の活動 2日(アンケート等)
- 本時 「相手の気持ちを理解する」のSSTでスキルを身に付ける。
- 事後の活動 5日(自己チャレンジ)

国語科の話合い活動で活用・定着

プログラムⅡ(実態に基づいたSSTを活用した国語科)

- 国語
(AI とのくらし)



- であう
 - 追究する
 - まとめる
- それぞれの話し合い活動で、
【インストラクション】
【モデリング】
【リハーサル】
【フィードバック】
のSSTの流れを基に、身に付けたスキルの活用・定着を図る。

学級活動学習指導案

題材名「友達の気持ちを理解しよう」

令和〇年〇月 5年 指導者 〇〇 〇〇

I 題材の構想

1 題材観

略（学級づくりプログラム 分布3 参照）

2 研究との関わり

「生徒指導提要」では、生徒指導の基本は児童生徒理解であり、調査データに基づく客観的な理解も有効であると記されている。日頃の日常観察による理解に加え、客観的な理解に基づくことで、児童の実態に基づいた具体的な指導や支援を取り入れた学級づくりができると考える。本研究では、日常観察による理解と客観的な理解に基づき、実態を把握し、実態に基づいたSSTを活用する。

本学級は、C&S質問紙の調査結果が分布5であった。「挨拶や話の聴き方、受容する態度等、基本的な関わりを通して信頼関係を築くことが必要であり、よさを認め合う活動が有効である」と示されている。学級のことに関する価値観の違いが大きく、優しい声掛けをより増やしていきたいという日常観察による理解が確認されている。そこで、他者を大切にすることを育てるために、「相手の気持ちを理解する」のSSTを行う。児童理解に基づいたSSTを行うことで、互いに気持ちよく生活するためのルールが定着し、安心して交流することができるようになり、本音で交流できるリレーションが形成されることで共感的な人間関係を育むことができると考える。

3 題材の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	学級や学校において、互いのよさを見付け、仲よく信頼し合って生活するための基本的な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。	児童同士が仲よく生活ができているが、学級内のルールを守ろうとしている児童とあまり考えていない児童に大きな差がある。
思考力・判断力・表現力等	学級における自己の生活上の課題に気づき、解決方法を意思決定し、実践することができるようにする。	学級として、楽しく過ごしている場面が多いが、集団としての理解の差が大きく、自己決定ができる児童とできない児童がいる。
学びに向かう力、人間性等	友達と関わる過程を通して、自己理解を深め、互いに協力し合って温かな人間関係を形成しようとする態度を養う。	個々を大切にしながら友達同士の関わりが見られる。自己と他者との価値観の違い認めようとする面と認められない面が混在している。

4 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。
集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。
主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 授業計画

事前の活動（2日）	本時	事後の活動（5日）
<ul style="list-style-type: none"> ・10月6日（金） ・10月10日（火） } 朝の会・帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・10月12日（木） 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月16日（月） ・10月17日（火） ・10月18日（水） ・10月19日（木） ・10月20日（金） } 帰りの会

6 指導及び評価、ICT活用の計画（「事前の活動→本時の活動→事後の活動」）

時間	■ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 ★ICT活用に関する事項 【 】SSTの流れ	知	思	態	◆評価項目＜方法（観点）＞ 〔記〕：記録に残す評価 <input type="checkbox"/> 指導に生かす評価 <input checked="" type="checkbox"/> 評価に用いる評価
事前の活動	■相手の気持ちを理解する場面を振り返り、自らの課題に気付いたり、クラスの問題意識を高めたりする。 <input type="checkbox"/> 学校生活を振り返り、相手の気持ちを理解することについて気付けるようなアンケートに答える。〔★〕 <input type="checkbox"/> アンケートの結果から学級内での相手の気持ちを理解することについての課題を知る。			○	◆事前の活動は2日間で行い、①アンケートに答える。②クラスの課題を知る。に進んで取り組んでいる。 ＜アンケート（態）＞ ◆相手の気持ちを理解することを振り返り、進んでアンケートに答えようとしている。 ＜アンケート（態）＞
[題材の学習課題] 相手の気持ちを理解することを知り、体験を通して他者を大切にすることを育てよう。					
本時（学級活動）	■相手の感情を知る表情の読み取り方、声や身振りへの注目の仕方を身に付け、相手の気持ちについて理解することができる。 <input type="checkbox"/> アンケート結果から課題を再確認する。	●			
[本時のめあて] 相手の気持ちを理解する方法を身に付けよう。					
【①インストラクション】 <input type="checkbox"/> 相手の気持ちを理解することについての認識をもつ。 <input type="checkbox"/> 相手の気持ちを理解することが人間関係においてどんな働きがあるか知る。 【②モデリング】 <input type="checkbox"/> 相手をよく観察することで、相手の感情を読み取る手掛かりになることに気付く。 <input type="checkbox"/> ワークシートを基に、相手の気持ちを理解する声掛けの見本を確認する。 【③リハーサル】 <input type="checkbox"/> ワークシートを基に相手の持ちを理解する声掛けの練習をする。〔★〕					

	【④フィードバック】 <input type="checkbox"/> 「相手の気持ちを理解する」ことの体験を通して感じたことを振り返る。 <input type="checkbox"/> 事後の活動の「自己チャレンジ」の内容を決める。			◆相手の感情を知る表情の読み取り方、声や身振りへの注目の仕方を身に付けることを通して、相手の気持ちを理解した声掛けをしている。 <行動観察、発言、ワークシート（知）[記]>
事後の活動	■自己の課題にチャレンジすることを通して、身に付けたスキルを活用・定着することができる。 <input type="checkbox"/> 自己の課題にチャレンジする。 <input type="checkbox"/> ペアやグループ、学級全体で、それぞれの自己チャレンジの内容を聴き合う。[★]		●	◆自己の課題に対して、進んで相手を理解するための声掛けを活用している。 <行動観察、発言、ワークシート（思）[記]>

Ⅱ 本時の学習

- ねらい 相手の感情を知る表情の読み取り方、声や身振りへの注目の仕方を身に付けることを通して、相手の気持ちについて理解することができるようにする。

2 展 開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 アンケート結果から課題を再確認する〔★〕（3分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <めあて> 相手の気持ちを理解する方法を身に付けよう。 </div>	○気持ちを理解することとは、どんなことか考えられるようにする。 ○学級全体で、共通理解を図るためにアンケート結果を大型モニタに表示する。 ○めあてを提示し、本時で学習する内容を明確にする。
2 相手の気持ちを理解することについて認識をもつ。（7分） 【①インストラクション】 ○学級での様子の写真を示し、感じたことを発表する。 S：〇〇さん、笑っている。〇〇さん、怒っている。 ○相手の気持ちを理解することが人間関係においてどんな働きがあるか知る。 例：泣いている場面を見ると ①見た側 S：相手の気持ちを理解できる。 S：相手と仲よくなりたい気持ちが増す。 ②見られた側 S：理解してもらえた気分になり、悲しみが減る。 S：一人から解放され、仲よくなりたい気持ちが増す。	○たくさんの意見や感じ方を共有するために、写真は学級の様子で様々な感情が表出しているものにする。 ○たくさんの意見や感じ方を学級全体で共有するために、写真から感じたことを問い掛ける。 ○相手の気持ちを理解することの働きを理解するために、具体的な例を示すことで、自分にも同じ経験がないか問い掛ける。 ◎相手の気持ちを理解することについて説明、助言をしながら、どんな働きがあるか考えさせるようにする。
3 他者の感情を読み取る手掛かりに気付く。（5分） ○相手をよく観察することで、相手の感情を読み取る手掛かりになることに気付く。 S：下を向いている。疲れている。	○相手の感情を読み取る手掛かりにするために、感情が表出している写真2～3枚準備する。 ○相手の感情を読み取る手掛かりに気付けるように、写真から分かることを問い掛ける。

<p>○教師の表情や声、身振りなどからも感情が読み取れることに気付く。 S：歩き方が強い。イライラしている。</p>	<p>◎表情や声、身振りから感情が読み取れることを理解させるために、教師が提示している写真場面を基に「目の大きさ」「声の出し方や大きさ」「身振りや手振りの強さ」を意識して演技を行う。 ○演技を基に感情の読み取り方には、いろいろな方法があることが気付けるように促す。</p>
<p>4 様々な場面について、相手の気持ちを理解する声掛けの練習をする。【★】（20分）</p> <p>【②モデリング】 ○ワークシートのその1の場面を基に、相手の気持ちを理解することのスキルの見本を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ついにゴールを決めた人の気持ちを理解する声掛け T：嬉しそうですね。見ているだけで先生も嬉しいですよ。 <p>○その2～その4についてワークシートを記入する。 ○その5の内容を学級全体で考える。</p> <p>【③リハーサル】 ○ワークシートを基に、相手の気持ちを理解する練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4人組グループでワークシートを基に体験をする。 1人：場面を演じる。 3人：声掛けをする。（その1の場面） 演じる役：ゴールを決めた！！やったー！（けるまね） 声掛け役：私も嬉しい。ぼくもすごいと思う。 	<p>○他者の感情を読み取る方法が理解できたことを前提に、次は感情に気付き、それを伝える場面を学ぶことを助言する。 ◎ワークシートの取組方をその1の場面を用いて説明し、「私も＋気持ちを表す言葉」で気持ちを伝える見本を見せる。</p> <p>○それぞれの場面の感情に対しての伝え方を記入するように促す。 ○その5については互いの価値観を理解できるように、クラスのことで場面設定はできないか問い掛ける。</p> <p>◎感情を読み取る手掛かりを活用しながら、声掛けができるように助言する。 ○グループの中で重ならないように場面を決め、それに対して他の3人は声掛けができるようにする。 ◎ICTで活動を記録し、練習の様子を可視化し、スキルの使い方を客観視できるようにする。</p> <div data-bbox="828 1402 1425 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>相手の感情を知る表情の読み取り方、声や身振りへの注目の仕方を身に付けることを通して、相手の気持ちを理解した声掛けをしている。 ＜行動観察、発言、ワークシート（知）＞</p> </div>
<p>5 相手の気持ちを理解することの学習を振り返り、「自己チャレンジ」の内容を決める。（10分）</p> <p>【④フィードバック】 ○相手の気持ちを理解することの体験を通して感じたことを振り返る。 S：気持ちを理解してもらおうと嬉しい。</p>	<p>○体験を振り返り、ワークシートに感じたことを記入する。 ○様々な意見に触れるために、体験を通しての感想を発表させる。 ◎活用・定着を図るために相手の気持ちを理解する声掛けを活用しながら練習ができていたことをほめ、やる気を高める。</p>

<p>○事後の活動の「自己チャレンジ」の内容を決める。</p> <p>S：困っている友達の気持ちを理解する声掛けをする。</p>	<p>○自己チャレンジを決める場面では相手の気持ちを理解することの働きを振り返り、相手意識や学級の様子を考えて内容を決めるようにする。</p> <p>◎スキルの定着を図るために、発表の場でも相手の気持ちを理解できる雰囲気づくりに努める。</p>
--	--

3 板書計画

めあて 相手の気持ちを理解する方法を身に付けよう。		ワークシートの拡大
学級の写真	・感じたこと	
<働き> ①見た側 ②見られた側		
感情が表出 写真①	感情が表出 写真②	【振り返り】
手がかりは？		【自己チャレンジ】

【友達の気持ちを理解しよう】

組 番 名前

★それぞれの友達にどんな言葉をかけますか。「私・ぼくも＋気持ちを表す言葉」を入れて書いてみよう。

その１： ついにゴールを決めた！



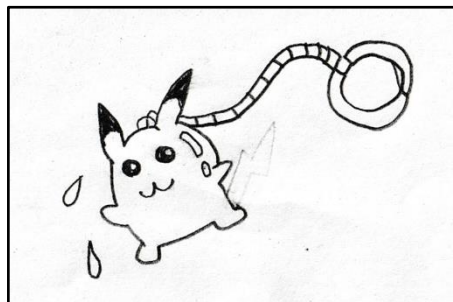
その２： 逆上がりができるようになった！



その３： 一輪車に乗れるようになった！



その４： 大切なキーホルダーをなくした！



その５：



★「相手の気持ちを理解する」を体験して感じたことを書いてみよう。

★自己チャレンジを決めよう。

<チャレンジ内容>

★自己チャレンジを振り返ろう。(例:〇〇が〜で、△△だった。)

①(/)

*ペアで振り返り

②(/)

*ペアで振り返り

③(/)

*グループで振り返り

④(/)

*グループで振り返り

⑤(/)

*クラス全体で振り返り

★自己チャレンジしてみたの感想を書こう★

国 語 科 学 習 指 導 案
単元名 考えを広げるために、立場を決めて話し合おう
「A I とのくらし」

令和〇年〇月 5 年 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、テーマに関する情報を比較・分類して、考え、話し合う単元である。ミニディベートは、3人組で、①利点の立場から意見を述べる役・②問題点の立場から意見を述べる役・③聞いて考える役を順に行う話し合いである。利点の立場・問題点の立場からの意見を述べる役は、それぞれ視覚資料を工夫することで分かりやすくしながら、根拠をもって意見を述べ、相手を説得することを試みる。聞いて考える役は、双方の立場を聞いて、どちらがどのように説得力があったか理由を述べる。

ミニディベートを行うことのよさは、学級全体の大勢での討論会には参加しにくい児童も、討論会の当事者となって自ら調べ考える機会を得られる。さらに、一人の児童が利点の立場と問題点の立場、両方の立場に立って、根拠をもって自らの考えを組み立てることで、多角的な考え方を育てることができる。

2 研究との関わり

本研究では、児童の実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニング（以下、SST）を取り入れた学級づくりプログラムを行い、自他を尊重し、一人一人が互いに認め合える児童の育成を目指す。プログラムⅠでは実態に基づいたSSTを学級活動で行い、プログラムⅡではSSTで身に付けたスキルを国語のミニディベートの学習で活用した授業を実践していく。

本学級では、他者を大切にすることを育てるために、「相手の気持ちを理解する」のSSTをプログラムⅠで行い、プログラムⅡでは「相手の気持ちを理解する」のSSTで身に付けたスキルを国語科のミニディベートの学習で活用することを通して、共感的な人間関係づくりを国語科の学習においても築いていけるようにする。

3 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童（生徒）の実態
知識及び技能	原因や結果など情報と情報との関係について理解することができる。 ((2)ア)	原因や結果などの情報を区別したり、関連付けたり、比較したりすることができる児童は少ない。
思考力、判断力、表現力等	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(A(1)オ)	自身の伝えたいことについて考え、発表することができるが、他者の意見を受け入れながら話し合いを進めたり、意見を一つにまとめたりすることが難しい。
学びに向かう力、人間性等	話したり聞いたりする言語活動の中で、相手、目的や意図、場面や状況において言葉を選んで表現し、思いや考えを伝え合おうとする。	相手の立場や目的や意図、場面や状況において、適切な言葉を選択し話し合いを進めようとする児童は少ない。

4 評価規準

知識・技能	原因や結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)
思考・判断・表現	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く立場を決めて話し合い、学習の見通しをもってさまざまな意見を聞いて自分の考えを広げようとしている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全5時間：本時第5時）

過程	時間	<p>■ねらい</p> <p>□学習活動</p> <p>★ICT活用に関する事項</p> <p>◇SSTに関する事項</p>	知	思	態	<p>◆評価項目＜方法（観点）＞</p> <p>〔記〕：記録に残す評価</p> <p>○指導に生かす評価</p> <p>●評定に用いる評価</p>
つかむ	1	<p>■単元やリード文を読み、普段、友達の意見を聞いて話し合いをしているかを振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>□立場をはっきりとさせて話し合った経験について発表する。〔◇〕</p> <p>□単元名やリード文を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>□単元の課題を把握する。</p> <p>□振り返りをする。</p>			○	<p>◆学習の見通しをもち、ミニディベートの目的を理解し、関心をもって学習に取り組んでいる。</p> <p>＜発表・観察・ノート（態）＞</p>
<p>[単元・題材の学習課題・問い等]</p> <p>立場を決めて話し合い、さまざまな意見を聞いて自分の考えを広げよう。</p>						
追究する	2	<p>■「AI との暮らし」について様々な立場についての情報を調べる。</p> <p>□「AI との暮らし」について、利点・問題点の両方の立場について調べる。</p>	●			<p>◆利点、問題点の両方の立場に立って情報を調べ、理解しようとしている。</p> <p>＜観察・ノート（知）〔記〕＞</p>
	3・4	<p>■情報を整理し、利点と問題点の立場から主張・理由・根拠のある意見を組み立てる。</p> <p>□ミニディベートの進め方を知る。</p> <p>□ミニディベートの準備の仕方を確かめる。</p> <p>□ミニディベートの振り返りの観点を確かめる。〔◇〕</p> <p>□様々な立場から意見をまとめる。</p> <p>□想定される質問については答えを考える。</p>	●			<p>◆情報を整理し、利点と問題点の立場から主張・理由・根拠のある組み立てをしている。</p> <p>＜ノート（知）〔記〕＞</p>
	5	<p>■テーマについて、主張をもち、理由や根拠を挙げながら話すことができる。</p> <p>□ミニディベートの進め方を確認する。</p> <p>□3人組になり、「利点の立場」「問題点の立場」「聞き役」の役割でミニディベートをする。〔◇〕</p> <p>□学習を振り返る。</p>		●		<p>◆テーマについて、主張をもち、理由や根拠を挙げながら意見を述べている。</p> <p>＜観察・ノート（思）〔記〕＞</p>
	6 本時	<p>■テーマについて、主張をもち、理由や根拠をあげながら話し、互いの考えを聞きながら考えを広げることができる。</p> <p>□めあてをつかむ。</p>		●		

		<p>【本時のめあて】 テーマについて、主張をもち、理由や根拠を挙げながら話し、考えを広げることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報や意見の組立てを再確認する。 <input type="checkbox"/> ミニディベートで考えを広げる。 【◇】 <input type="checkbox"/> 学習を振り返る。</p>				<p>◆ 主張をもち、理由や根拠を挙げながら話し、互いの考えを聞きながら、考えを広げている。 <観察・ノート（思）[記]></p>
ま と め る	7	<p>■ 考えを広げるために話し合うことについて、話すことや聞くこと、話合いの仕方について振り返り、今後に生かすことができる。 <input type="checkbox"/> 感想を交流する。【◇】 <input type="checkbox"/> 「話合いの達人ガイドブック」をまとめる。</p>			●	<p>◆ 話すことや聞くこと、話合いの仕方について振り返り、今後に生かそうとしている。 <発表・話合いの達人ブック（態）[記]></p>

注：【◇】では、SSTの流れ【①インストラクション】【②モデリング】【③リハーサル】【④フィードバック】を取り入れる。

Ⅱ 第6時の学習

- ねらい テーマについて、主張をもち、理由や根拠を挙げながら話し、互いの考えを聞きながら考えを広げることができる。

2 展 開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応【S】 ★ICT活用に関する事項 ◇SSTを活用する事項 【】SSTの流れ	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 本時のめあてをつかむ。【★】（5分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <めあて> 利点、問題点、それぞれの立場から「主張」「理由」「根拠」を基に話し合い、考えを広げよう。 </div> <課題> ・ただの言い合い。 ・根拠が分かりづらい。 ・図やグラフがあると分かりやすい。	○前時よりも考えを広げられるようにするために、前時のミニディベートでの課題を問い掛ける。
2 情報や意見の組立てを加除修正する。（10分）	○前時の課題を基に、「利点の立場」「問題点の立場」の内容について、加除修正を加えるように促す。 ○説得力をもたせるためには、具体的な例や具体的な数値があるとよいことを助言する。 ○ICTで調べる中で、具体的な数値やグラフが載っているページをミニディベートの中で示しながら、説明してもよいことを伝える。

3 ミニディベートで考えを広げる。[◇]
(25 分)

◇【①インストラクション】

T：これからミニディベートを行います。ディベートなので、相手がどんな気持ちでいるかを考えながらできるとよいと思います。どうすれば相手の気持ちを考えられますか。

S：表情や声の大きさなど。

◇【②モデリング】

T：表情や声の大きさなどを意識する。では、先生がお手本を見せます。

T：〇〇さんが意見を言えた場面で、「私も同じように考えました。同じで嬉しいです。」

○3人組で「利点の立場」「問題点の立場」「聞き役」の役割でミニディベートを行う。

Aさん：「利点の立場」「問題点の立場」「聞き役」

Bさん：「問題点の立場」「聞き役」「利点の立場」

Cさん：「聞き役」「利点の立場」「問題点の立場」

◇【③リハーサル】

T：では、「相手の気持ちを理解する」で学んだ相手を観察したり、「私も＋感情語」を使ったりしながらミニディベートを始めましょう

S：利点の立場は・・・。

S：私もこの意見、いいと思います。

S：聞き役としては、この意見もよいと思うけど、こっちの意見もよいと思います。

◇【④フィードバック】

T：相手の気持ちを理解する声掛けを使いながらミニディベートができていましたね。

○ミニディベートを基に、自分にはない考え方があったり、なるほどと納得や説得させられたりした内容をメモする。

◎SSTで身に付けた「相手の気持ちを理解する」のスキルを話し合い活動の中で活用できるように、録画してあるSSTの場面を大型モニタで視聴する。

【①インストラクション】

◎相手の気持ちを理解するためにどのようなことを意識したらよいか問い掛け、再確認する。

【②モデリング】

◎「相手の気持ちを理解する」で学んだことを想起させ、相手を観察したり、「私も＋気持ちを表す言葉」を使ったり、相手の気持ちを理解する見本を見せる。

○3人がそれぞれの立場を経験するために、「利点の立場」「問題点の立場」「聞き役」を順に繰り返すことを説明する。

○考えが広がることがポイントであり、相手を論破することや攻撃することが目的ではないことを確認する。

◎「相手の気持ちを理解する」で身に付けたスキルを定着させるためにミニディベートでも活用していくことを促す。

【③リハーサル】

◎相手を観察したり、「私も＋気持ちを表す言葉」を使ったりしながら相手の気持ちを考え、ミニディベートができるように助言する。

【④フィードバック】

◎相手の気持ちを理解する声掛けが活用できていた児童やグループを称賛する。

○考えを広げるために、自分にはない考え方があったり、なるほどと納得や説得させられたりした内容をメモしていくように促す。

○メモがなかなか進まない児童には、自分には思いつかなかった内容を箇条書きで書くように助言する。

	<p>◆評価項目</p> <p>主張をもち、理由や根拠を挙げながら話し、互いの考えを聞きながら、考えを広げている。</p> <p><観察・ノート（思④）></p>
<p>4 学習を振り返る。（5分）</p> <p>①個人で振り返る。</p> <p>②発表を通して、学級全体で振り返る。</p>	<p>○本時の内容を振り返るために、「何を学んだのか」「どのように学んだのか」などの視点を与えてまとめやすいようにする。</p> <p>○学級全体で振り返りを共有するために、「何を」「どのように学んだのか」を詳しく発表するように促す。</p> <p>○発表を通して、意欲的に考えを広げようとしている児童を称賛する。</p>

3 板書計画

<div>めあて</div> <p>利点、問題点、それぞれの立場から「主張」「理由」「根拠」を基に話し合い、考えを広げよう。</p>	<div>課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ただの言い合い。 ・根拠が分かりづらい。 ・図やグラフがあると分かりやすい。
<div>ふり振り返り</div> <p>（何を学んだのか。どのように学んだのか。）</p>	<div>ミニディベート</div> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き役の観点（自分は説得されたか。） ①主張と根拠が合っているか。 ②説得力のある工夫はあったか。 <p>○考えが広がった内容を書こう。</p>